神様チート物語

セレネ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
神様チート物語

【Ｎコード】
Ｎ４６８９Ｏ

【作者名】
セレネ

【あらすじ】
「そこ」は白い空間。
そこで起こるとある出来事。
神様チート物語の始まり始まり。
この小説を読み終えたときあなたは転生の真実（笑）を知る？

（前書き）

ふと思いついたので転生物を書いてみました。
以前からネタとして考えてはいたのですが、この度文章にすることにしました。

では恒例（？）の注意書き
・この作品に登場する神は特定の宗教とは一切関係ありません。
・この作品は特定の作品に対して喧嘩を売っているものではありません。
・適当に色々な作品で使われている設定を弄っているので正確には3次創作（？）になるのかもしれません。
・ただし、特定の作品の設定を使っているわけではないのでやっぱり二次創作でいいのかもしれません。
・色々問題点が多い作品ですが所詮1発ネタの見切り発車を笑って受け流して下さい。

以上の注意書きに「おk、了解した」と言う方だけスクロールしてくださいw

それでは神様チート物語始まります。

「そこ」は白く、ただ果てしなく空間が続いているだけの場所だった。

――あの世、黄泉、天国、地獄、奈落。

「そこ」は様々な呼び方があったが、共通することが唯一つだけある。

それは「そこ」が死後の世界である、と言うことだ。

神様チート物語

「そこ」には当然――とでも言うべきであろうか？――「神」と呼ばれる存在がいた。

「神」と聞いてあなたはどんな存在を想像するだろうか？

全知全能の存在？世界を管理する絶対者？それとも全てを産み出した創造主？

確かにそういった存在もいるのかもしれない。

だがこの場合はそれは不適切である。

ここにいる「神」の存在意義にして、仕事にして、
最近では人間で言うところの呼吸とでも言うべきものになりつつある権能とは、

――魂の運営、と言うものだった。

人の世でも語られているように――輪廻転生――魂は廻りゆくものだ。
天命、運命、寿命、言い方は様々だが人の死ぬまでの時間は産まれた時から定められている。
予定通りに失われれば予定された通り次の生へと向かってゆく。

だがしかし、何事にも例外は存在する。
稀に極めて少数ではあるが定められた時と違う結果に終わる者がいる。
予定より長いにしろ短いにしろ予定を外れた魂は行き場を失ってしまい、
最悪の場合には消滅してしまうこともある。

そういった魂の保護及び転生先を用意するのがここにいる「神」の権能であった。

そして、また一人運命から外れてしまった者が現れたことからこの物語はスタートする。

「さて、それでは第・・・、何回目じゃったかのぅ？」

唐突に呆ける神。

「３兆とんで２４３１回目です」

神の助手――いわば天使とでも言うべき存在――が神に伝えた。

「ふむ、もうそんなになるか・・・」

神が過去に思いを馳せ「過去を懐かしまなくて良いので早く始めてください」・・・られなかった。

「ふぅ、やれやれじゃのぅ。まぁ良い、それでは第３兆とんで２４３７回転生試験を「２４３１回です」・・・２４３１回転生試験を開始する（シクシク）」

神はもう半泣きだった。

ｓｉｄｅ　？？？

ん？あれ？ここはどこだ？
全部真っ白い・・・空間？
俺は確か・・・、そうだ。
学校の帰りにトラックにはねられて・・・ッ！？
もしかして死んじまったのか！？

”気付いたか　人の子よ”

だっ、だれだっ！？
頭（？）に直接「声」が響くのを感じる。

”私は高位存在　お前たちの言うところの神だ”

神って・・・、たしかにここは不思議なとこだし、頭に「声」が響くのも凄いけど信じられない。

”ふむ　信じられないか”

「声」は続けて言った。

”お前の名前は××××だな　家族構成は父母妹の４人で・・・、・・・と言う人生を送ったのだろう？”

「声」は俺の人生を全て語って見せた。
それどころか俺の知らない俺の事さえ語って見せた。
語り終える頃には「声」が神、かどうかはともかく俺より遥かに高位の存在だと理解できた。
・・・流石に人生レベルのストーカーとか嫌過ぎる。

”さて　信じてもらえたようで何よりだ”

俺死んじまったんだな・・・。
あれ？でも、なんでこんなところにいるんだ？
死んだ奴みんなここに来るんだろうか？
だったら爺ちゃんとかもいるのかな？

”お前は何故自分がこの場に来たか分かるか”

何故って・・・、死んだから？

”間違ってはいない　ただし正しくも無い”

死んだ事が直接の理由じゃないって事か？

”然り　人は生まれたときから死すべき時が決まっている
　お前は何の手違いかその定めから外れてしまったのだ”

なッ！？俺が死んだのは間違いだったって言うのかよッ！？

”そういうことだ　こちらも申し訳なくは思っている”

謝られたって・・・！

”そこで君に新たな生を与えることにした”

・・・はい？

・・・ッ！？二次創作みたく転生できるって事かッ！？

”然り　今回の事はこちらの手違いだ
故に普通の転生とは違い特典をつけてやろう”

おいおいマジかよッ！それを早く言ってくれよ！
いろんな世界で無双とかもできるのかッ！？

”無双？　ふむ　では１つ目の特典はその世界で最強の存在になることで構わんか？”

１つ目って・・・、いくつまで良いんだ？

”そうだな　お前は本来７３まで生きられるはずだったか　では５つと言ったところだな”

おぉ！５個も良いのか！
じゃぁ、１つ目は魔力とかも含めて最強の力で、２つ目はその世界で知らないことはなくしてくれ！

”ふむ　知識か　では世界に刻まれし情報を読み取れるようにしてやろう”

３つ目は・・・、そうだなぁ、無限の剣製とかできるようにしてくれ！

”無限の剣製？　なんだそれは？”

あ～っと、知らないのか。
じゃぁ世界中の伝説の道具全部入ってて望んだ奴が手元に現れるような蔵（王の財宝）をくれ。

”良いだろう　蔵は異界にでも設置しておけば良いのか？”

あぁ。４つ目は美形にしてくれ。もう見た瞬間女の子が虜になるような。

”整った容姿だな　見た瞬間というと魅了の効果でもつけるのか？”

あぁ～、いや魅了は良いや。なんか相手の知能レベル下がっちゃいそうだし。

５つ目は吸血鬼の真祖にしてくれ。

”吸血鬼の真祖？　吸血鬼は分かるが真祖とはなんだ？”

真祖ってのは、要は弱点の無い吸血鬼って所だな。

”ふむ　血を啜り力を高め　日の光も苦とせず　十字架も大蒜も恐れない吸血鬼　で良いのか？”

あと、流水の上も渡れるようにしてくれ。

”わかった　まとめるぞ？

最強の力　世界の知識　伝説の蔵　整った容姿　吸血鬼の真祖で良いな？”

あぁ！

それで生まれ変わるのはどこなんだ？

”当然　元いた世界ではお前が死んだ　と言う結果がある以上再度存在することは出来ない”

そっか。じゃぁどこに行くんだ？

”ふむ　世界は無限に存在する　行きたい　否　「生きたい」世界はあるか？”

じゃあマンガだけど、ネギまの世界ってあるか？

”マンガの世界か　世界は想像された瞬間に創造される　近しい世界はあるだろう”

じゃあそこにしてくれ！

時間軸とかも指定できるのか？

”私はその世界を知らない　お前が強くその世界を思い描き　瞬間を望めば辿り着けるだろう”

分かった。要は強く考えれば行けるって事だな？

”然り　では送ろう　世界を思い浮かべたか？”

あぁ！いいぜ。

”では新たな生を謳歌せよ”

そうして俺の意識は薄れていった。

最後になんか「声」が聞えた気がする。

・・・

”正しき選択をすることを祈っている”

・・・

あれからいろんなことがあった。
俺は持ち前の妄想力のおかげか丁度エヴァが真祖になったタイミングでこの世界に来ることが出来た。

色々修行したりして大戦までエヴァと行動を共にし、
大戦では最初赤き翼と敵対してラストバトルで共闘って感じになった。

創造主すら圧倒できたし流石神様自身最強の力って言っただけの事はあるな。
おかげでバビロン使い所が無いけどなw

知識はボチボチ役に立ってる。
力任せじゃ解決しないこともあるし、
脅h・・・ゲフンゲフン、説得とかにも使えるしなッ！

さぁてこの間ネギの村が悪魔に襲撃されたらしいしもうすぐ原作だ！
待ってろよ、エヴァッ！そしてまだ見ぬ美少女たちよ～ッ！

ｓｉｄｅ　神

「そこ」では試験の結果を受けて暗い空気が漂っていた。

「またダメじゃったのぅ」

神は深いため息と共に言った。

「えぇ、これで3兆とんで２４００人目ですね」

「これだけやって３１人しか真面目に生きられぬとは・・・。
人とは如何に堕落しやすい生き物かが伺える、というものじゃ」

「やはり最初に特典をつけるのが問題では？」

「確かにそうなんじゃが、これも試験の一部じゃしのう？」

「正確に言うと、転生したと勘違いさせ、その後の生き方を本当の

転生を迎える際の転生先を決める指標にする転生試験の一部ですね」

「見事な説明口調ありがとうのぅ」

「いえいえ」

しばし沈黙が流れた。

「まぁ、とにかく結果は出たわけじゃし。
そうじゃな、次の転生先は何か適当な魚辺りにでもしておくかの」

「了解しました。そのようにしておきます」

「下がってよいぞ」

「はい。ではこの魂を連れて行きますね」

その場から助手と先ほどの試験を受けた魂が去り神だけが残った。

「・・・う～む、また試験方式を変えるべきかのぅ。
まぁどちらにせよ、すぐには変えられんし次の魂に期待するかの」

神はふと思い出したように上を見上げながら続けた。

「お主達も「ここ」に来ることがあったら真面目に生きるようにの？
これはわしからの心からの忠告じゃわい。
なぁ？「ここ」を覗いとる君らに言っとるんじゃぞ？
そう、画面の前の君たちに、じゃ」

そういい残し神は去って行った。

（後書き）

さて、如何だったでしょうか？
個人的にはニッチついたんじゃね？と自画自賛しております。

・・・。

ごめんなさい。嘘です。スキマにゴミ無理やりねじ込んだ気がしてなりません。
だから石投げないで～＞＜

まぁ、例によって文字数少ないのでサラッと読めたと思います。
と言うか私の文章クドイので長々書くと途中で「戻る」とか窓閉じられそうですけどねw

それでは、誤字訂正や感想、何でもいいので一言頂けると嬉しいです。
お便り待ってま～す（パロディウス風）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4689o/

神様チート物語

2011年10月7日04時57分発行